

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和7年度 第2回 相模原市下水道事業審議会部会			
事務局 (担当課)	下水道経営課 電話042-707-1840 (直通)			
開催日時	令和8年2月5日 (木)			
出席者	委員	4人 (別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	10人 (下水道経営課長、下水道料金課長 他8名)		
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	<input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数 0
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題	下水道使用料の見直しについて			

議題 下水道使用料の見直しについて

事務局から「資料 下水道使用料の見直しについて」に基づいて説明が行われた。維持管理計画等に基づいた長期財政収支シミュレーションを実施し、それを基に今後10年間の財政収支見通しの中間報告を行った。

令和8年3月23日に開催予定の令和7年度第3回下水道事業審議会の説明資料として、当該資料を基に、一部を追加・修正し使用することについて、了承された。具体的な追加・修正内容は次のとおり。

- ・資料構成の変更
- ・資本的収支、収益的収支、補填財源の関係性が分かる図を追加
- ・資料「下水道使用料改定までの流れ」の開催回数、テーマ名称を変更
- ・資料「下水道使用料見直しの進め方」の開催回数、テーマ名称、開催時期を変更

主な意見

(広田部会長)

今回の試算に新たに加えられた長期財政収支シミュレーションは、どのような位置付けなのか。

(事務局)

相模原市下水道施設維持管理計画の最新データに基づき、40年の長期財政収支シミュレーションを加えたもので、資本的収支及び収益的収支を試算する際のベースとして位置付けている。

(広田部会長)

長期財政収支シミュレーションの設定条件は。

(事務局)

人口推計をもとに行政人口、整備人口、水洗化人口について低位、中位、高位というパターンを算出し、低位ケースを採用している。

収益的収入の算出にあたり、有収水量及び使用料収入は、人口減少と使用水量の減少に合わせて試算している。一般会計からの繰入金である雨水処理負担金は、雨水分にかかる維持管理費の増加を見込んでいる。

収益的支出の施設修繕費は、これまでの実績の中で一番高かった費用で試算し、流域下水道の維持管理に係る負担金は、県が策定している流域下水道ビジョンを反映している。また、委託料や資本的支出の工事費に係る物価上昇率は、国土交通省が示している建設デフレーターの平均値を採用している。

資本的収入の国庫補助金、県補助金、企業債の借入額は、実際の建設改良費の支出額をベースに算出している。また、一般会計からの繰入金は、企業債の借入分に伴う償還元金分の一定額を含んでいる。

資本的支出の企業償還金は、建設改良費の支出をベースとし、流域下水道負担金は、維持管理費と同様に県の流域下水道ビジョンの内容を反映している。

(広田部会長)

長期財政収支シミュレーションをすべてのベースに使用料改定の議論をするのは不安が大きい。

(事務局)

10年間の安定した経営ができるよう経営戦略を策定し、3年ごとに使用料の見直しを行っており、そのベースとするために長期の設備投資、維持管理費を想定した長期財政収支シミュレーションを実施した。使用料の見直しの議論においては、経営戦略と10年間の試算データをもとに説明を行う。

(広田部会長)

市民向けに説明する際は、説明する内容の順番に配慮をした方がよい。

(青山委員)

資料4ページ、令和11年度の耐震化事業が減少し、令和17年度及び令和18年度の浸水対策事業が増加という状況を、平準化できないことが伝わる資料を用意した方がよいではないか。

(事務局)

実施する事業数で平準化は図れても、事業規模が年度によって異なることから、金額で平準化することは難しい。

(碓井委員)

目標値を考えると、どのような状態ならば良いのか。損益計算書が赤字であっても、資金繰りができていれば良いのか。どこを目標に使用料を設定すべきなのか。

(事務局)

向こう10年間は安定した経営が継続できるような料金設定を検討するため、令和7年度の決算を反映させた、より精度の高い資料で説明する必要がある。

(石田委員)

過去に行ったシミュレーションと実際の結果において、数値が乖離した要因とし

て突発的な支出があったということはないか。あればその分を見込んだ料金設定が必要である。

(事務局)

予算の執行率は、資本的支出は約7割、収益的支出が約9割で基本的に突発的な支出はない。あえて挙げるなら、電気料金の高騰により県への流域下水道負担金が増加した。

(石田委員)

長期財政収支シミュレーションをもとに10年分を示すということだが、高位、中位、低位など複数のパターンを示した方がいいのではないか。

(事務局)

長期財政収支シミュレーションは3パターン算出しているが、一番低位を使っている。

(青山委員)

健全な経営とは具体的にどういうことなのかを示したうえで、使用料改定の必要性の有無が議論できればよいのではないか。

(事務局)

他市の事例では、資金不足という表現で施設を更新する財源がないという言い方をしているので、説明にあたっては工夫が必要である。

赤字経営が続くことは望ましい状況ではないため、シンプルに赤字が出ている資料を示して説明することで使用料見直しの議論できればと考えている。

(青山委員)

自治体によっては、3年ごとなど小刻みに改定をするところもあるが。

(事務局)

段階的に上げるやり方もあるが、10年間は上げずに安定した経営が継続できるということを目指している。

(碓井委員)

県への流域下水道負担金の今後の支出予測は。

(事務局)

県の説明では、今後、大幅に増加することが想定されるとのことだが、本市は処理場を持っていないことから仕方ない部分もある。県には、増額内容の精査と設備投資の平準化の検討をお願いしている。

(石田委員)

単年度資金収支の中には、具体的な数字は示せなくても県への負担金が増えるということは付け加えて、赤字が生じる年度が近くなることを説明したほうがよい。

(事務局)

単年度資金収支には、ほかに内部留保資金や消費税調整額など様々な要素も加わることから、資金不足を理由に改定の議論を展開するのは難しいと考えている。

(石田委員)

次回の審議会では、資本的収支と収益的収支を資料16ページの図を使って丁寧に説明した方がいいのではないかと考えている。

(事務局)

使用料改定を説明する際には、維持管理に係る費用を使用料で賄うのが大前提であり、損益計算書を黒字にするために使用料を改定するということを伝える必要があると考えている。

(青山委員)

資料8ページに令和7年度の決算を踏まえてとあるが、仮に黒字だった場合は、見直しはしないという意味か。

(事務局)

令和7年度決算の確定値を反映させて、より精度を上げた資料で検討するという意味である。

(石田委員)

資料16ページの図に直近の時点、過去の10年前の時点、向こう10年間のうちのある時点を比較することで、過去、現在、未来の財政状況の変化をイメージしやすいのではないかと考えている。

そこに詳細を説明する資料として、資本的収支と収益的収支の表を付ければわかりやすいのではないか。

(広田部会長)

みなさんからご意見をいただきましたように、次回の審議会では図を用いながら資本的収支と収益的収支の説明を丁寧に行うよう資料の作成をお願いします。

以 上

相模原市下水道事業審議会部会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	あおやま みつお 青山 光男	公益財団法人 神奈川県下水道公社		出席
2	いしだ みつなり 石田 三成	東洋大学 経済学部 准教授		出席
3	ひろた はるあき 広田 啓朗	武蔵大学 経済学部 教授	部会長	出席
4	うすい あつこ 碓井 敦子	碓井公認会計士事務所		出席